

『発掘宇治'10』

平成22年度 発掘調査・文化財速報



宇治市街遺跡現地説明会(4月)



寺界道遺跡(9月)



庵寺山古墳定期公開(11月)



西山古墳(12月)



文化財防火デー(三室戸寺・1月)



文化財総合把握調査(白川地区家屋調査)



赤幡小学校生の現地見学(浄妙寺跡・4月)

宇治市歴史まちづくり推進課

浄妙寺跡の南限を示す築地^{ついで}

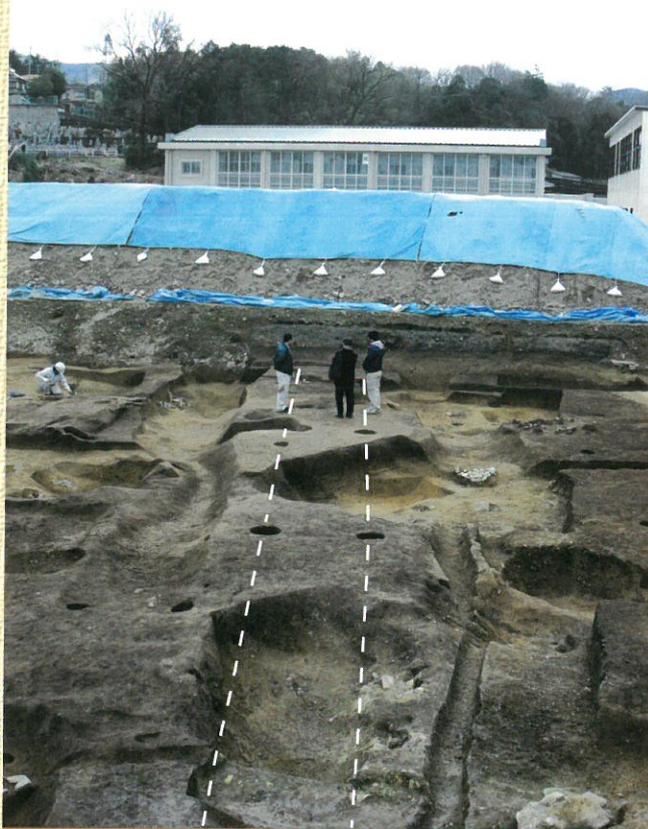
平安時代、木幡の丘陵地は藤原氏の墓所でした。浄妙寺は一門の菩提を弔うため、寛弘2年(1005)に藤原道長が建立した寺です。室町時代に焼亡し、その後場所もわからなくなりましたが、昭和42年の木幡小学校建設の際に、本堂である法華三昧堂^{ほっけさんまい}の遺構を発見することができました。

今回の校舎建築に伴う発掘調査で、寺の南限を画す「築地」の跡を発見しました。築地は両側の溝と塀の柱穴からわかったもので、瓦の出土量が少なく板葺き屋根であったと考えられます。今回発見した築地跡の東側には、寺の正門である南門があったと考えられます。南面築地の発見により、初めて浄妙寺の境内範囲を特定することができました。

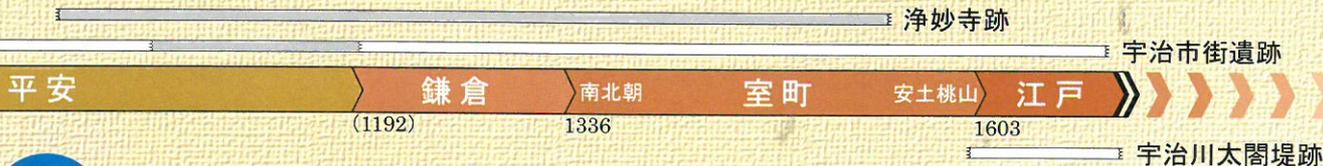
築地は土をつき固め、上に屋根をかけた土塀のことで、宮殿・社寺・邸宅に用いられます。屋根は瓦葺きとされていますが、絵巻などには板葺きのものも多く描かれています。



復元された築地
(特別史跡平城宮跡・瓦葺き)



検出した築地跡(白点線内側)



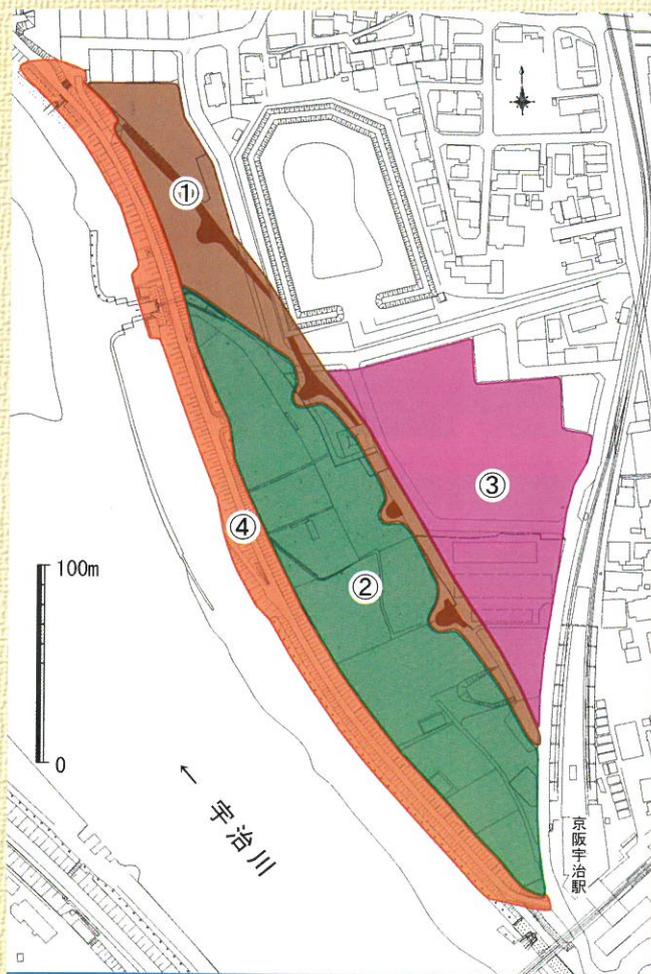
史跡宇治川太閤堤跡の整備計画

史跡を適切に保存し、次世代へと確実に伝えていくために定めておくべき事柄として「保存管理計画」があります。保存管理計画は、史跡の本質的価値や保存管理の方法を示す保存管理の分野と、整備する場合の手法等を示す整備活用の分野で構成されています。

今年度末の計画策定に向け、宇治市では専門委員会を設置し、宇治川太閤堤跡の保存・整備・活用に関して議論を重ねてきました。その一部を紹介します。

～整備の方向性(概要)～

①	「宇治川太閤堤跡の復元整備」 宇治川太閤堤跡の護岸遺構が発見された部分で、築堤当時の姿から埋没の過程を復元整備します。
②	「茶園の整備」 築堤時の川部分で、砂が徐々に堆積し、茶園となった様子を再現整備します。
③	「拠点施設の整備」 太閤堤内側の陸地部分で、史跡のガイダンス施設や観光交流施設の整備を行います。
④	「展望コースの整備」 遺跡を広い範囲に見渡すことができるため、見学路の一部と位置づけ、視点場の設置を検討します。



整備に向けた区域分け(案)

しんでんづくり

別業都市宇治の寝殿造遺跡

宇治市街遺跡は、現在の宇治市街地一帯に広がる、古墳時代から江戸時代に至る集落遺跡で、いわば宇治の歴史的な軌跡が遺跡化したものです。これまでの発掘調査で、市街地に残る碁盤目状の町割りは平安時代後期の都市計画の名残りであることが判明しています。

今回の調査地は JR 宇治駅の北側で、平安時代後期の貴族邸宅の一部を発見しました。発見した廊跡や庭園跡は、平安時代に成立した貴族の邸宅「寝殿造」の配置によく合致しますが、建物の南側に池がある平安京内とは配置が異なっていました。宇治の北側には巨椋池や遠く比叡山を望む雄大な景色が広がるため、この景観美を庭園の借景に取り入れたためと考えられます。

寝殿造は、平安京で完成した貴族住宅の様式です。中心建物である寝殿の両側から対屋や廊を左右対称に配置し、その南側に広い庭と園池を備え廊沿いに遺水が池に注いでいました。



寝殿造の模型
(源氏物語ミュージアム)



検出した池跡(写真下半分)

遺跡の時代

今回調査した時代

寺界道遺跡

弥生

古墳

飛鳥

奈良

3世紀中頃

(600)

710

794

庵寺山古墳

西山古墳

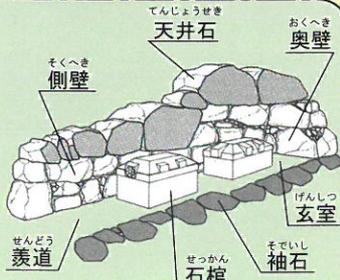
市民の手により守り伝えられた古墳

西山古墳は、小倉町と伊勢田町の境に近い西山の住宅地にあります。古くは「石のからと」や「マンジュウ塚」と呼ばれていました。早くから横穴式石室が露出していたようで、50年ほど前に土地所有者の方が土を盛って古墳を復旧し、維持管理をされました。

今回の調査は石室の状況を確認するものです。石室は天井石を失っており側壁が3段ほど残っていました。形式は、羨道より玄室が両側に広がる両袖式で、古墳時代後期(6世紀後半から7世紀初頭)に築造されたものと考えられます。

石室の大きさから、近くにあったムラの長とその家族の墓であると考えられます。

横穴式石室は古墳時代後期に一般化する、石で組んだ埋葬用の部屋のことで、入口通路を羨道、埋葬部分を玄室と呼びます。棺には、石で作った石棺、木の木棺、焼き物の陶棺などの種類があります。



横穴式石室模式図



今年の文化財あれこれ



寺界道遺跡の発掘調査

五ヶ庄の寺界道遺跡では、これまでに縄文時代の貯蔵穴や土器棺、古墳時代の竪穴住居や奈良時代の集落など、様々な生活の跡が発見されています。

今回の発掘調査では、古墳から奈良時代にかけての建物跡を検出しました。また中世から近世にかけての井戸なども検出され、これまでの想定より長期にわたって人々が生活していたようです。



庵寺山古墳の定期公開

広野町にある庵寺山古墳は、古墳時代前期(4世紀ごろ)に造られた直径56mの円墳で、市史跡に指定されています。京都盆地を一望できる、府内で一番見晴らしのよい古墳です。

毎年春と秋の2回、古墳の一般公開をしています。11月の公開日には、近くの集会所で勾玉づくりを行い、子供たちが熱心に取り組みました。



小・中学生の文化財見学会

市内に残る多くの文化財を通して、郷土の歴史を学ぶために、宇治市文化財愛護協会と11月27日に第20回小・中学生の文化財見学会を開催しました。

今回は、古代の宇治の中心地と考えられる五ヶ庄地域にある許波多神社や二子塚古墳、西導寺などの文化財を30名ほどの親子でめぐりました。



文化財防火デー

毎年1月26日は、文化財防火デーです。文化財防火デーは、昭和24年1月26日に法隆寺金堂が焼損したことを教訓とし、毎年全国各地で防火訓練や防火研究会が開催されています。

今年宇治市では、地域で文化財を守る文化財まもり隊が三室戸寺と十八神社で結成され、三室戸寺で防火訓練が実施されました。